

光鯨会だより

第20号 [平成28年7月]
発行 | 光鯨会会長 岡本 賢 (S39)
本部長 | 井戸田 秀樹 (S58)
連絡担当者 | 夏目 欣昇 (H5)

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 社会工学科 建築・デザイン分野内
Mail | koukokai@archi.ace.nitech.ac.jp Tel | 052-735-7967 HP | <http://koukokai.jp/home>

1 | 大学は今

□本部長挨拶

井戸田 秀樹 (S58) 名古屋工業大学教授



光鯨会会員の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

明治40年(1907年)に光鯨会が発足し、来年でいよいよ110周年となります。名古屋工業大学建築学科90周年および100周年の節目には学科が主体となり、光鯨会の協力のもと、学科の変遷と歴代教員および大学としての研究業績をまとめたデータベース的記念誌を発行してまいりました。一方、光鯨会会員の多くは卒業後、建築にかかわる業界で多くの業績を上げ、社会と人類の発展と幸福のために貢献してきました。光鯨会110周年を迎える来年、

今回は卒業生にスポットを当てた記念誌づくりに取り組もうと考えています。具体的な編集内容は今後幹事を中心に議論を重ねていく予定ですが、光鯨会会員の皆様にもさらなるご協力をお願いすることになると思います。その節は是非ともご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

なお、光鯨会では、公式ホームページ(<http://koukokai.jp/home/>)で旬な情報を提供しているほか、大手SNSのFacebookに光鯨会のグループページを開設しています。こちらではクラス会の報告や、幹事会後の飲み会の様子など、公式ホームページよりもっと身近な情報をタイムリーにお届けしていますので、ぜひご活用下さい。

これからも光鯨会会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

□母校近況報告

兼田 敏之 名古屋工業大学教授



今年度の教室主任を務めることになりました。よろしくお願いいたします。

国立大学法人化から12年を経て、本学は今年4月より模様替えを行ないました。その骨子は「大括り化」とでも呼ぶべきもので、

建築・デザイン工学科は社会工学科の一分野として統合され、建築・デザイン分野と称することになりました。また、大学院では創成シミュレーション工学専攻、産業戦略工学専攻が新規配属を停止し、新たに発足した六年一貫制の創造工学教育課程に井戸田秀樹教授、私、石松丈佳准教授、北川啓介准教授が兼担として配属され、定員100名の新生を持つことになっています。なお、教室主任(分野長)である私は、社会工学副教育類長と社会工学副専攻長を兼務しております。

今年の学部入学の1年生は73名。うち国費外国人留学生が2名、私費外国人留学生1名で、女子学生が22名となっております。また3年次編入生が1名おります。大学院博士前期課程にはあわせて50名が

入学しています。

教員関係では、まず役職として、男女共同参画推進センター長として藤岡伸子教授、高度防災工学センター長として井戸田教授、また創造工学教育課程の副教育類長として同じく井戸田教授、私どもの分野の副分野長として井上雅弘教授が活動しています。人事異動としては、松本直司教授、水谷章夫教授が今年3月をもって定年退職、高橋之助教が退職され大同大学に赴任されました。また、須藤美音助教が准教授に昇格されました。なお、昨年10月からクロスアポイント制度に基づき株式会社みかんぐみの加茂紀和子教授が着任されております。

今年は就職活動解禁が6月に変更されたため、原稿執筆時点ははっきりとしませんが、6月末時点で大学院57%、学部35%(進学予定51%)、求人数も好調で、最終的にはほぼ全員が決まると予測されます。

定員減が悪材料と懸念されました本分野の入試ですが、これまでどおりやはり優秀な学生が入学してきました。入口(入試)から出口(就職)までの在学生の活路につきまして、光鯨会の皆様のご支援を今後ともよろしくお願いいたします。

□学生の活躍

夏目 欣昇 (H5) 名古屋工業大学准教授

この一年間の学生の主な活躍を紹介いたします。

■建築系学生の活躍 大橋怜君「変容するアゴラ」がH27年度光鮫賞とNAF2015で最優秀賞をW受賞しました。ほかには櫻井君が東海卒計コンクールで金賞受賞。そのほか矢野さん、市井君、太田君が上位入賞を果たしました。日本建築学会設計競技では、廣澤君と小林君がそれぞれ東海支部入選を果たしました。また、リアルハウス設計コンペでは、金賞に村越君ほか、名工大勢が上位を独占する活躍をみせました。研究方面でも、岡河君はじめ3名が優秀講演賞を受賞するなど、大羽君が仕上学会で奨励賞を受賞しました。多くの学生が多数入賞に輝き、現役学部生も意欲的に活動しております。

■デザイン系学生の活躍 堀内理恵さん「伊勢型紙のブランディングのためのデザイン」が学科長賞を受賞しました。また、3月上旬に卒展(卒業制作展)を学生企画で実施したほか、高校生向けオープンキャンパスにおいてデザイン系学生の制作物を集結させたプログラム紹介展を催し、将来の名工大生にデザインすることの楽しさをアピールしました。

□第四回鈴木禎次賞報告







夏目 欣昇 (H5) 名古屋工業大学准教授

2015年～2016年にかけて第四回鈴木禎次賞を実施いたしました。当賞は特に組織で活躍する若手設計者による建築作品の顕彰を目的とするものです。今回はゲスト審査員として山本理顕先生をお招きし、4月下旬から公募いたしました。7月中旬の応募〆切には過去最多88作品が集まりました。応募作品の質は回を重ねる毎に高まっており、当賞の認知と期待の高まりを事務局として感じております。

最終審査は9月下旬に実施、慎重な審議の末、右図のように受賞作品が決定されました。大賞には笹山恭代氏・石原嘉人氏(㈱日建設計)による桐朋学園大学調布キャンパスが輝きました。低層市街地に建つ音楽大学の設計計画、斬新なプログラムを卓越した技術力により昇華した作品です。授賞式は11月に開催、受賞作品紹介と山本理顕先生講演を多数の学生が聴講し大いに刺激を受けた様子です。惜しくも選から漏れたものも入賞作品に引けを取らぬものばかりであったことを申し添えいたします。OBからも多数応募を頂きましたが、今回は入賞には至らず、次回の奮起を期待するところです。

当賞は名工大の後援および11社の御協賛企業様のご支援により運営いたしました。関係各位に御礼申し上げます。次回、一層の発展を期しております。

卒業設計「変容するアゴラ」	光鮫会賞※1	大橋怜君 M1	
卒業制作	学科長賞※2	堀内理恵さん H28 卒	
JIDA 中部ブロックデザイン賞	最優秀賞※3	齋藤拓磨君	
///	優秀賞	寺邊裕希君	
///	ゲスト賞	佐藤貴大君	
JIA 東海卒業設計コンクール	金賞	櫻井貴祥君 M1	
///	銀賞	福島大地君 M1	
///	佳作	市井暁君 M1	
///	入選	太田侑作君 M1	
NAGOYA Archi Fes 2015	最優秀賞	大橋怜君 M1	
///	ファイナリスト	市井暁君 M1	
///	三宅博之賞	市井暁君 M1	
日本建築学会設計競技東海支部	入選	廣澤克典君 H26 卒	
///	入選	小林洵也君 M1	
愛知建築士会学生コンペ佳作		山本知慧君 H26 卒・田中匠哉君・柴田沙希さん・藤田恭輔君 M2	
///	佳作	深町駿平君 M1・木暮優斗君 M1	
キルコス国際建築コンペ	郡裕美賞佳作	柴田沙希さん・藤田恭輔君 M1	
環境デザインコンペティション	選外佳作	長谷川大樹君 M2・鳴海晃司君 H27 卒	
リアルハウス設計コンペ	金賞※4	村越勇人君 M1	
///	銀賞	市井暁君 M1	
///	銅賞	小林洵也君 M1	
///	入選	廣澤克典君 H26 卒	
ハーフェレコンペ	選外入選	桂川大君 MH28 卒	
ウッドフレンズ 住宅設計学生	優秀賞	松岡弘樹 M2・福田雄太郎 B4	
///	入選	杉岡敬幸 M2・得津秀馬 B4	
///	入選	小林洵也君 M1	
リノベーションデザインコンテスト	入選	小野友子さん M2	
福岡デザインレビュー2016	優秀賞※5	矢野ひかるさん H28 卒	
///	75 選	大嶽伸君 M1	
///	75 選	太田侑作君 M1	
建築新人戦 2015	16 選	田淵隆一君 B4	
///	100 選	安藤祐奈さん B4	
///	100 選	濱田愛美さん B4	
///	100 選	谷川浩一君 B4	
///	100 選	平林永里加さん B4	
日本建築協会 U-35 学生コンペ	特別賞	上野友子さん M2	
日本建築学会東海支部優秀学術講演賞		岡河雅人君 M2	
///		太田侑作君 M1	
///		小川隼平君 H28 卒	
日本建築学会関東支部優秀研究報告賞		浅倉和真君 H26 卒	
日本建築仕上学会 学生研究奨励賞		大羽慧君 M1	
トウコレ 2016 論文展	一次通過	桂川大君 MH28 卒	

	
大賞 桐朋学園大学調布キャンパス 笹山恭代氏・石原嘉人氏 (㈱日建設計)	佳作 JFE スチール西日本製鉄所福山本館 水越英一郎氏・鈴木重則氏 ㈱山下設計 ㈱竹中工務店
	
優秀 日本無線先端技術センター 河野信氏・西山昌志氏 (㈱日建設計)	佳作 東北大学片平キャンパス AIMR 本館 小野寺紳氏・荒井拓州氏 (㈱三菱地所設計)
	
優秀 熊本かがやきの森支援学校 高木研作氏 (㈱日建設計)	佳作 池袋第一生命ビルディング 花岡郁哉氏 (㈱竹中工務店)

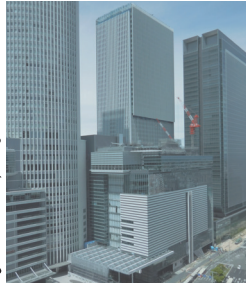
2 | 卒業生は今

□本部

小島 章弘 (H19) 大成建設(株)

2007年に大学を卒業してから9年が経ちました。大成建設に入社し、現場監督として横浜支店で建物の施工に携わってきました。約3年前に名古屋支店に転勤となり現在のJRゲートタワーの現場で日々業務を行っています。

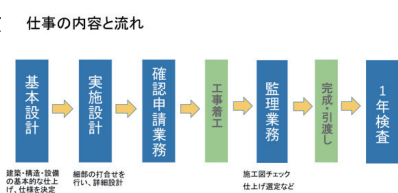
私が入社する時はまさにルーセントタワーが建設中の頃でした。JRセントラルタワーズやルーセントタワーのような名古屋で大きな建物の建設に携わりたいという思いで入社した私は、現在とても大きなやりがいを感じています。このプロジェクトは昨年竣工したJPタワーや大名古屋ビルディングと同時進行し、さらにリニア中央新幹



線など非常に注目を集めています。さらにJR線、地下鉄線が敷地の両側を通り、建物の中央には名古屋鉄道が運行しながらの工事となります。また、名古屋駅前の交通量の多い場所、超高層建築、大深度掘削といった非常に難易度の高い工事です。その為、第三者災害や周辺環境への影響を考え、一つ一つの工事に緊張感のあり、気が抜けない状況が続いています。このように苦勞も多い仕事ですが、それ以上に節目節目での大きな達成感・やりがいを感じています。現在は内装工事がメインとなり毎日約2000人の作業員の方々が働いています。これだけ多くの人が一つの目標に向かって進む大きなパワーを日々感じながら、2017年2月末の竣工を目指して最後まで精一杯頑張りたいと思います。

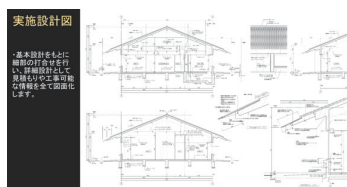
安井 雅子 (H17) (株)青島設計

設計事務所の仕事について、1つの建物ができるまでの過程に沿って紹介しました。



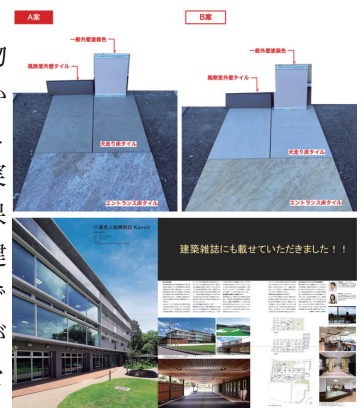
【1.基本設計】設計条件を整理し、計画案の比較検討を繰り返し1案に絞っていきます。次に建物の仕上げや、構造方式、設備の仕様など建物のスペックを決めて工事費の概算を出します。【2.実施設計】基本設計をもとに

細部の打合せを行い、ディテールの検討や設備との取り合いなど詳細を詰めていきます。



【3.建築確認申請業務】を経て工事着工へ。【4.監理業務】施工図のチェックや、仕上げの色決め等、引き続き現場に携わっていきます。

このように長い期間1つの物件に関わり、建物が完成して形になるとかなりの達成感を味わうことができます。最近の実績では、高齢者施設や保育園などがあります。建築雑誌に顔写真付きで自分の設計した建物が載ったりと良い経験をさせてもらいました。



水野 秀昭 (H18) 中部電力(株)

平成20年に大学院を卒業後、中部電力に入社。今年で入社9年目になりますが、その大半を火力発電所の建設プロジェクトに携わってきました。入社以来、6年間は栄の本店勤務でしたが、現在は火力発電所の建設所に勤務しております。

火力発電所と一口に言いますが、敷地内に10以上の建築物、煙突等の工作物があります。本店勤務時代にはタービンや発電機が入る本館建屋をはじめ、メインとなる設備に関連する建築物、工作物の計画から設計、発注を行ってきました。建設所勤務になってからも附属建屋の設計、発注を行いながら、作業管理、工事監理を行っています。

建築物、工作物の計画から完工まで一貫して深く関

わることができるのは建築に携わる者として、大変幸せなことだと思います。工事は最盛期を迎え忙しいですが、その思いを忘れることなく、現場一丸となって平成30年3月の全軸営業運転開始を目指します。



建設中の本館建屋 (手前) と煙突2基 (奥)

大学院を修了してからトヨタホーム(株)に入社し、今年で6年目になりました。入社1年目で販売・工場の実習を経験し、今はマンション事業室という分譲マンションディベロッパーの部門で働いています。戸建住宅メーカーのディベロッパー部門という特殊な環境の中、若手のうちよりOJTで学びながらひとりで物件を任せてもらえることもあり、やりがいを持ちながら仕事を進めることができています。また、プライベートでも昨年第一子が誕生し、家に帰っても初めてづくしの生活をしております。新しいことを楽しみながら、住宅や様々なことに置き換え、こんなものがあれば便利だなと思うことが増えてきています。自分の実体験などより、より良い商品づくりができればと考えながら日々を過ごしております。



2012年に大学院を卒業しブラザー工業へ入社。複合機(プリンター・スキャナ・ファクスが一体の製品)やラベルプリンターといった製品にUIデザイナーとして携わっています。主な業務は製品に付属する液晶の画面デザインで、製品を使いやすくするという使命のもと、設計から評価までを通して関わっています。

今年で入社5年目となり、プロジェクトを主担当として任される機会も増えてきました。そろそろ中堅になってきたか、と責任とやりがいを感じています。有り難いことに過去担当した製品のいくつかは国内外のデザイン賞の受賞に恵まれており、励みになっています。

昨年からはPCソフトやスマートフォンアプリの

□関東支部

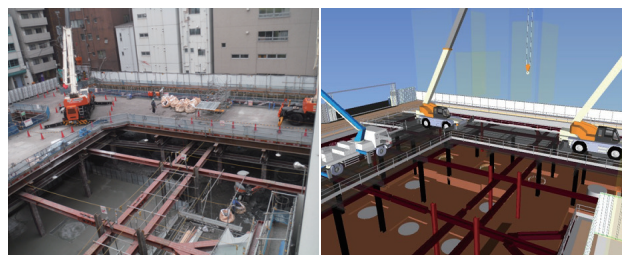
現場監督から設計をしたい!と大学院に入り直してスタート設計部に無事就職。今の会社に入って4年目、社会人としては7年目、少し異質な経歴をもっています。現在は「BIM生産管理部」という部署にいます。スタートでは、大手ゼネコンに負けられないようにBIMの最先端を担うぞ、と昨年新たに部署を発足しました。

BIMとは簡単に言うと3Dモデルに情報を付加したモノ。今までの平面の設計図や施工図の代用として使うため、2D図面の時には発見できなかった細部のディテールや納まりに初期の段階から対処できる。さらに、情報が付加されているので、モデルを組み上げた段階で柱や梁などの部材、仮設材料の数量がすぐに計算できる。海外のプロジェクトではすでに当たり前になりつつあるが、実際にやってみると課題が多いのも事実である。

チームへ移動し、今年には子供に恵まれ、新居にて週1日は在宅勤務によるリモートでの業務をするなど新しいワークスタイルを経験しています。これは一重に様々なソフトウェアシステムの恩恵ですが、ソフトウェアは日々移り変わる世界です。作り手側の身として肌身に感じますが、この移り変わりを常に勉強しながら、良い製品体験をお客様に届けるために尽力していきたいと思っています。



自分の仕事はというと、主に施工BIMの作成をしています。現場で職人さんに指示していたものがすでに3Dで検討できるので、自分で作成していて気分がいい。施工BIMでは、4Dといって仮設段階からリアルタイムで現場を再現できる手法もあります。仕事をしながら、ますます発展していくBIMを身近で目にするのはとても楽しみです。

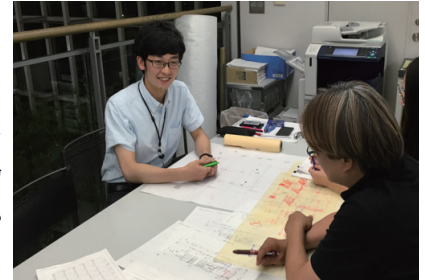


実際の現場(左)とBIMによる再現4Dモデル(右)

内藤 雄太 (H24) (株)久米設計

久米設計に入社して早くも3年目を迎えました。1年目は本社の階段・トイレの実測・作図などをはじめとする半年間の研修を経て、住宅開発を主に担当する部署に配属が決まりました。2年目は1級建築士の資格勉強に本腰を入れ、上司・同僚のサポートのおかげで無事取得することができました。迎えた3年目では初めて基本計画から基本設計、実施設計までを一通り経験させて頂く機会を得て、現在1万㎡弱のホテル担当をさせて頂いております。建物の成り立ち、納まりに対する知識を習得するのが日々楽しく、あっという間に一日が終わるこの頃です。中でも設備・構造との打合わせでは意匠側の要求と相手側の要求との擦り合わせを難しく感じている

のですが、「問題を持ち帰らない、手を動かす(スケッチ)、断面で考える」といった上司のアドバイスを実践し、何とかその場で喰らいついていこうと心がけています。教育熱心な上司、スマートな同期・同僚に囲まれ、充実した毎日を送っています。今回のプロジェクトを無事成就させ、建築士として初めて判子を押せるよう全力で取り組んでいきたいです。



打ち合わせにトレベは必須

廣澤 克典 (H26) 大成建設(株)

昨年度、博士前期課程を修了し、生まれ育った東海地方を離れ、東京での新生活を送り始め、早3カ月がたちます。毎朝の満員電車や高層ビルでの仕事にはまだ慣れませんが、社内外の多くの先輩方に励まされ、友人たちと励ましあいながら、多くの方々との繋がりに感謝しています。

光鯨会関東支部では、5月に新人歓迎会を催していただき、鹿島関東支部長をはじめ、関東で活躍される先輩方から多くのアドバイスをいただきました。現場に赴けばJ V他社の先輩にお会いするなど、建設業界における先輩方のご活躍を体感し、同窓の繋がりの大切さを実感しています。

社内では、建築設計の同期12名のうち半数が女性と驚く一方、どの部署にも先輩がいらっしゃり、

□関西支部

どのようなことでも何えとても心強いです。

まだまだ研修の身で、現在は設計業務におけるBIM活用の普及に向け、設計演習を通して利用・応用方法の勉強中です(下図、演習作品)。また、新たな繋がりを広げていこうと、日本設計やJREの設計同期と共に見学会やコンペなどを通して勉強会を始めました。これからも多くの繋がりに感謝しながら、いち早く設計者として「地図に残る仕事」に携わりたいと感じています。



馬場 和実 (S48) (株)B&B企画

大学での卒業研究は、京都大学の西山外三研究室の流れを汲む、計画系の服部研究室でした。卒業後に都市計画的な事をやりたいと思っていた訳ではなく、何となく入った研究室でしたが、卒業後40年以上過ぎた今思い返してみますと、意識の深い所で自分自身の考え方に服部研究室での経験が生きている様な気がしています。最初に入社した東京の年岡建築設計事務所は、日本勤労者住宅協会の集合住宅団地の設計監理を中心にした意匠・構造・設備の担当者を揃えた事務所でした。建築の設計監理を総合的に勉強させてもらう事が出来ました。父親の死を契機として関西で働きたいと思い、服部先生に相談したところ西山外三先生も設立に関わった京都の京都建築事務所に行く事になりました。社会との関わり方を重視する意匠専門の設計事務所です。病院、集合住宅、個人住宅等様々な建築の設計に携わりましたが、使う人の立場になって建築設計を考えるとという基本的なスタンスが出来た様に思います。36歳に

なった、昭和61年に独立して、大阪に設計事務所を開設し現在に至っています。設計事務所開設と同時に、不動産業もする事にしていましたので、事務所名称はB&B企画という、設計コンサルタント業的な名前にしました。以来30年大阪を地盤に建築設計を中心に仕事してまいりましたが、その間不動産協会の活動も続けてまいりました。協会の会員の利益を守ると共に、消費者保護の活動が協会の重要な仕事になっています。現在我国の社会問題となっており、空き家について、昨年全国空き家相談士協会が立ち上がりました。今はこの空き家問題に積極的に取り組んでいこうと思っています。国の施策は今も新築住宅に重きを置いている状況で、今後も空き家は増え続けます。空き家の利活用について色々な職種の人達とも協力して、具体的な解決策を提案できればと思います。ふり返って自分の経歴を書いてみますと、服部研究室で学んだ社会問題に取り組むことの意義を改めてかんがえています。

幼い頃から「ものづくり」が好きな理由で建築の道を志し、社会に出て17年目を迎えました。私が学生時代、名工大に講師として来られた吉永先輩 (S38卒) と三井先輩 (S39卒) の姿に魅かれて当社に入社しました。入社2年目には、大阪球場跡地に建つ「なんばパークスタワー」の作業所に勤務しました。そこでは、当時日建設計の構造設計部長であられた鶴飼先輩 (S38卒) の図面を片手に現場を走り回っていたことを思い出します。また、年に1回の光鯨会関西支部総会にも参加させて頂き、会社の枠を超えて長谷川先輩 (S38卒) から心に沁み渡る御指導と激励を頂きました。

技術研究所や技術部勤務を経て再び作業所勤務となった「京阪香里園駅東再開発」の作業所では、当時アール・アイ・エーの斎藤先輩 (S46卒) に大変お世話になりました。その後、亀山総括作業所長 (S56卒) のもとで「あべのハルカス」という日本

一のものづくりにも携ることが出来ました。

こうした貴重な経験を経て、現在は大阪駅前で工期8年に渡る「阪神百貨店の建替工事」に従事しております。まだまだ自分の未熟さを感じる日々が続きますが、ものづくりにかける心と技を創造しながら更なる研鑽を積んでいきたいと考えております。同時に、人の気持ちや意見を謙虚に受け止め、共に働く仲間とベクトルを合わせる心を持って、会社を通じて社会貢献をしたいと思っております。一方で、これまで諸先輩方から頂いた御厚意を今後は私が後輩へと引き継ぎ、名工大のDNAを脈々と継承していく使命を感じる今日この頃です。



なんばパークスタワー



京都香里園駅東再開発



あべのハルカス



阪神百貨店建替工事

朝日 智生 (H18) (株)日建設計

「卒業生は今」と言われて素直に報告すると「2歳の世界一かわいい子供を関西に残し、東京で寂しい単身赴任生活をしています。」と悲しくなるだけなので、楽しかった設計の話の少し。

建物は神戸学院大学附属高等学校の体育棟で、「生命感」「躍動感」を表現する校章(梅花)をモチーフに構造体を多角形でデザインしました。アリーナの天井を見上げると、六角形の集合体で構成した2つの平面が互いに直交して重なり、交差部に五角形が見え隠れ、武道場にはある力学的合理性の中で五角形を忍ばせました。もちろん全てが構造体。12年前、恩師小野徹郎先生の講義「鉄骨構造」から始まった鉄への興味は、今も薄れることなく、鉄の“新しい表現”を考えながら日々の業務と戦っています。



神戸学院大学附属高等学校 アリーナ



武道場

3 | 光鯨会は今

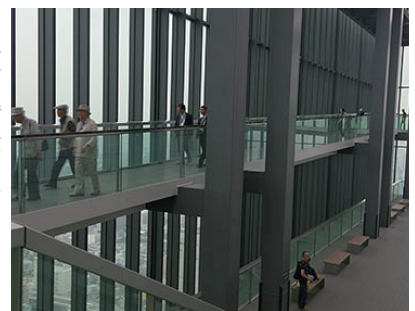
□本部だより一見学会の報告

松田 浩司 (S60) 光鯨会幹事/大成建設(株)

5月28日に光鯨会本部の春の見学会が開催されました。見学会は、最初にミッドランドスクエアのトヨタ自動車様の会議室にて「大変貌する名古屋のカオ」と題し、名古屋学院大学の井澤教授に、名古屋の昔と今の姿、名古屋駅の歴史、名駅地区と栄地区の比較と移り変わりなど、をユーモアある語りでもわかりやすく説明していただき、その後、地上220mのスカイプロムナードを回遊し、大変貌しつつある名古屋駅周辺地区を俯瞰しました。その後、JPタワー名古屋に移動し、施主である名工建設様のご案内で、3階カンファレンスルームにてビル概要説明として3つのFIRST(利便性、オフィス特化

型、ステイタス)の説明があり、その後、35階にて無柱空間オフィスにて自動換気システムを見学、名古屋駅上部を俯瞰し、13階カフェでは、特徴あるテナント専用のラウンジ・食堂と、実際にビルに組み込まれている新合金制振ダンパーを見学しました。

来年の見学会も楽しみです。



ミッドランドスクエアのスカイプロムナード

□本部だより一会長挨拶

岡本 賢 (S39) 光鯨会会長



光鯨会の活動は年々活発になっております。各支部では建築見学会や総会、懇親会が行われ、大学では若手によるOB、OG交流会や各界で活躍している先輩による特別講義等もあります。隔年で行われる建築賞の鈴木禎次賞は来年5回目、10年目を迎え多くの応募作品が寄せられるようになってきたと思います。夏のネットワークキャンパスも今年で3回目を迎えます。スタートの関戸さんのご厚意でこの有意義な企画が続けられてきましたがこれを長く続けていく為に光鯨会基金を充実させていく必要があると思います。その為の資金集めに皆様のご協力が是非必要です。趣旨にご賛同頂けますようお願いいたします。

名工大建築デザイン学科という名称も変わるこ

とになったそうです。日本は少子高齢化、人口減少社会になっていきます。建築の需要もだんだん減っていくと考えざるを得ません。将来はヨーロッパ型のリニューアル、コンバージョン、店舗改装等のプロジェクトが増えて新築案件が減ってくると思います。又海外プロジェクトへの参加が多くなるでしょう、そのような状況に対応するような教育システムが必要になるのかも知れません。従来の建築学科もイメージが変わってしまうのでしょうか。

これらリニューアルなどは建築士資格が無くても仕事ができる部分があります。建築設計業務の業務独占問題とも関係して大きな課題となっていくと思います。昨年来新国立競技場問題、オリンピックパラリンピックのエンブレム問題など建築デザインに大きな社会的関心が寄せられました。建築、デザインに関わる人たちの価値が今問われていると感じます。

光鯨会は110周年を迎えます、何か記念事業を企画して多くの方々が参加できる機会が増えればと念願しております。

□本部だより一総会・懇親会のご報告

高木 晃二 (S57) 光鯨会本部幹事長 / (株)大林組

5月28日に開催されました総会にてご承認いただき、小山裕康前幹事長のあと、今年度幹事長を務めます高木です。よろしくお願いいたします。

評議員会では、昨年度の活動および会計報告、光鯨会会則のうち評議員定数増に関する改定、本部役員・幹事の交代、今年度の活動計画および予算についての協議がなされ、43名の参加による総会における報告の後、各議案とも承認されました。本部役員は36名中11名を新任として、今年度の活動を開始しました。懇親会は、昨年と同様に学生会館で開催され、今回は17名の新入会員を含め、60名に参加いただきました。諸先輩からは当会員の方々の活躍の様子や当会の歴史の深さ、新入会員からはフレッシュな思いでの抱負をお話いただき、卒業して以降の同窓としての繋がり大切さを改めて思い起こす機会となりました。今年は開学111周年、光鯨会も来年発会110年を迎えます。伝統ある当会に属していることを誇りに感じ、会員相互の働きかけによって本会を盛り上げていきたいと思っております。本部幹事会での議事内容は、今後の議事予定も含め、光鯨会HP上に掲載しています。皆さんからのご意見をお待ちしております。



□関東支部だより—関東支部新人歓迎会と支部総会・懇親会のご案内

鹿島 孝 (S59) 光鯨会関東支部長 / (株)竹中工務店



昨年に引き続き光鯨会関東支部長を務めます鹿島です。

関東支部では若い人の光鯨会への参画が少ないことが課題となっています。そこで今年度、初めての試みとして5月11日

(水)に“新人歓迎会”を企画しました。この春、支部幹事の所属会社に就職された新会員に声をかけ、支部幹事との懇親会を行いました。あいにくS社の研修日と重なってしまい、参加できた新会員は4人だけでしたが、新旧交えて楽しいひと時を過ごすことが出来ました。参加した新会員からも「先輩方にお会いし気兼ねなくお話しできる機会は滅多にないため、ネットワークを広げる大変貴重な機会になりました」との感想をもらいました。今年度は個人情報の壁もあり、支部幹事の所属会社の方に限定しましたが、来年度以降拡大していき、これを機に若い人が光鯨会活動に興味を持ってもらえればと思います。また、夏に開催される“ネットワーク・キャンパスin Tokyo”に参加する学生さんとも交流を深めていきたいと思っています。

さて、今年度の支部総会・懇親会は11月25日(金)に開催します。場所は昨年と同じ“大手町サンケイプラザ”です。現在、企画を検討しておりますので、近くなりましたら改めてご案内いたしますが、お近くの若手をお誘いいただき、奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。



関東支部新人歓迎会での記念写真

〒270-1393 千葉県印西市大塚 1-5-1
(株)竹中工務店 技術研究所 (080-6720-6270)
支部長 鹿島孝 (S59) 副支部長 鈴木孝彦 (S9)
副支部長 工藤利昭 (S61) 連絡担当者 宇佐美徹 (H3)

□関西支部だより—今年度の活動状況と支部総会のご案内

宮本 和則 (S55) 光鯨会関西支部長 / (株)京都建築事務所

関西支部では今年は2月、4月、6月、8月の第1金曜日の夜に、大阪堂島にある中央電気倶楽部で定例会を開くこととなっています。中央電気倶楽部は、戦前に関西で活躍した葛野壮一郎の設計で大林組が施工し、1930年に竣工したスパニッシュレトロな近代建築です。戦前の倶楽部建築として内装もなかなか趣きがあり、建築学科のOB会場としてもふさわしい建物です。

第1回定例会は新事務局の紹介や前年の総会報告、新年度の予算と行事予定等の討議でしたが、第2回定例会では北川研究室の博士課程に在籍する加藤正都君に来阪いただき、自らが実行委員長となって立ち上げた「NAGOYA ArchiFes 中部卒業設計展」を中心に、母校の学生たちの元気で頼もしい活動を紹介いただきました。加藤君は個性的な若者で、企画力、プレゼンテーション力と共に全身を駆使した表現力に富んでおり、先輩諸氏を唸らせてくれました。ご褒美の夜の新地も十分満喫して、帰宅していただけたかと思います。

第3回定例会では秋の支部総会について討議し、10月8日(土)に舞鶴まで遠征して開催することに決まりました。そして竹中工務店の穂山和生氏(S56)に統括所長を務められた「あべのハルカ

ス」の施工について、主任を務められた中島正人氏(H09)と共にご講演いただきました。数々の先進施工技術の紹介と共に、苦労話も率直に語っていただき、出席者一同、驚きと感心の連続でした。

次回8月の定例会では馬場和実氏(S48)にタイムリーな課題である空き家活用について講演いただき、玉水新吾氏(S51)には共著でこの6月に出版された「建築現場のコンクリート技術」の紹介をお願いする予定ですので、関西支部会員はもちろんのこと、来阪予定のあるOBの方々にもぜひご参加いただければと期待しております。

今年度の支部総会は久々のバスツアーで、ご家族で丹後の秋を満喫していただくと共に、イージス艦の乗船見学やレング建築群の見学も企画しており、全国からのご参加をお待ちしています。



〒541-0057 大阪府大阪市中央区北九宝寺町 3-6-1
(株)鴻池組 田邊太一 (06-6245-6315)
支部長 宮本和則 (S55) 副支部長 藤澤繁男 (S53)
連絡担当者(事務局長) 田邊太一 (S57)